

## 第2回 向日町競輪事業外部有識者会議 次第

日 時：令和4年9月13日（火）

午後1時30分～

場 所：向日町競輪場 選手管理センター  
3階305会議室

### 1 開 会

### 2 第1回向日町競輪事業外部有識者会議における主な意見について

### 3 議 事

（1）競輪事業の現状について

（2）向日町競輪場の特徴及び他の競輪場の状況について

（3）自転車競技と競輪場（自転車競技場）の魅力と可能性について

（4）意見交換

### 4 その他

### 5 閉 会

#### <配付資料>

出席者名簿、配席図

資料1 第1回向日町競輪事業外部有識者会議における主な意見

資料2 競輪事業の現状

資料3 向日町競輪場の特徴

資料4 他の競輪場の状況

資料5 自転車競技と競輪場（自転車競技場）の魅力と可能性

#### <参考資料>

第1回向日町競輪事業外部有識者会議 議事概要

第2回 向日町競輪事業外部有識者会議 出席者名簿

【委員】

(五十音順・敬称略)

氏名	役職等
岡崎雄至	寺戸町連合自治会会長
奥野美奈子	京都銀行取締役
川勝健志	京都府立大学副学長
小長谷敦子	小長谷公認会計士事務所
徳廣剛	京都府立北桑田高等学校長 (公財)京都府スポーツ協会参与
山本将利	三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)主任研究員 横浜商科大学特任教授

【(公社)全国競輪施行者協議会】

氏名	役職等
大久保修次	事務局次長兼企画部長

【京都府】

氏名	役職等
能勢重人	京都府総務部副部長
福井景一	京都府自転車競技事務所長

## 第1回 向日町競輪事業外部有識者会議における主な意見

### <議論の進め方>

- ・ 競輪事業が始まった頃に比べ、取り巻く環境が大きく変わっていることを踏まえた議論が必要ではないか。
- ・ 全体的に前向きな、何かうまく活用していく方向性でという意見であったが、仮に存続という方針が有識者会議で共有できるのであれば、それなりに条件を満たす必要があり、その点にも留意しながら議論を進めるべきではないか。

#### (存続に当たっての条件 (前提・留意点))

##### ① 公営競技(競輪事業)の意義・役割の再確認

取り巻く環境の変化を踏まえた、新たな役割(人材育成、スポーツ振興、健康増進、まちづくり、地域貢献・社会還元等)

※ 当初の役割(戦後復興の財源確保、産業振興への貢献)は、一定果たしたのではないか

##### ② 公益性の担保

意義の府民との共有(そもそも府民に知られていない)、負の側面(ギャンブル性)の抑制、透明性(賞金の現金による授受など)・安全性(施設の老朽化への対応)の確保

##### ③ 社会経済情勢の変化への対応

自転車競技そのものの変化やデジタル技術の進展(インターネットによる車券購入の増加やネット配信の主流化(来場者を前提としない))等に対応した、リニューアルや施設の活用のあり方(現行の施設規模の必要性、整備方法(改修、建替)、観戦のアクセシビリティ向上などファン層の拡大につながる仕掛け)

- ・ 仮に事業を存続するといった場合に、これまでの形をそのまま踏襲することを前提とせず、様々な可能性を追求していく。選手、観戦する人、地域住民の皆さん、誰にとってもハッピーになるような存続の方向性や、競輪がスポーツとして発展し、地域貢献にも資するような向日町競輪場にしていくにはどうすればいいのか、議論できればいいのではないか。

### <競輪場の存在(まちづくり・地域との関わり)>

- ・ 向日市の真ん中に競輪場があり、まちづくりと一緒に競輪が発展してきた。地域にとって、競輪場がどのように活用、整備されるのが最大の関心事である。存廃にかかわらず、地域住民に親しまれる施設に生まれ変わることを期待している。
- ・ まちづくりと一体的にこの施設を何らかの形で活用していくという方向性の議論が必要ではないか。また、競輪そのもの、競輪をベースにした様々なイベントなど地域との関わり、地元の方々との関係性を見ていく必要があるのではないか。

### <施設整備(収支、財源確保、内容・規模)>

- ・ 施設の老朽化が著しいことから、事業を継続する場合、包括外部監査で中期的には十分費用が見込めるとされている点を精緻に見ながら、施設整備のあり方を検討すべきではないか。
- ・ 中期的な計画として、修繕だけでいいのか、建替が必要か。また、財源確保(あらかじめ積み立てておくなど)をどうするのか。

- ・ デジタル技術の進展やコロナ禍を踏まえた新しいスポーツの捉え方（動画配信での観戦等）も考慮した、**現行の競技場や観客席の規模が必要かどうか検討すべき**ではないか。予算もそれほどかけなくても、十分楽しんでもらえるのではないか。

### <地域貢献（地元利用）>

- ・ 競輪場は、地域の交流の場、例えば、お祭りやイベントといった**地域の人たちが集まって交流する**という場づくりにも、近隣における類似施設の状況も踏まえる必要があるが、活用できるのではないか。
- ・ 特に、向日町競輪場は他の競輪場と比べ、**競技場（バンクなど）の外側のスペースが広い**ことから、敷地を有効に活用し、再整備により、使い勝手をさらに良くなれば、地域のイベント会場として、非常にいい場所になるのではないか。また、地域のイベントも、定期的な開催（週末毎）のようなやり方もあるのではないか。

### <スポーツ振興、地域振興>

- ・ **競輪という側面（収益の確保）と、競技という側面（全国強豪校の存在など裾野の広さ、競輪を含めた自転車競技の人材育成）、地域貢献（スポーツイベントの開催による地域振興）に資する**という側面を併せ持って議論していく必要があるのではないか。
- ・ 自転車競技の競技場という要素以外の、他のスポーツや地域振興とも絡めた、施設のあり方を検討すべきではないか。また、施設が地域振興に関わっている部分、例えば、イベントを誘致することで、それが地域振興につながっている側面も踏まえながら、**競技だけではなく地域振興につながるような視点も必要**ではないか。
- ・ ロードレースだけではなくて、トラック競技も含めて知ってもらえれば、裾野がもっと広がり、競輪にも興味を持ってもらえるのではないか。そのようにつながるような施設としていく必要があるのではないか。
- ・ **競輪事業の収益をどのような形で活用していくのか**、例えば、スポーツ振興への活用をより明確にすれば、競輪をやってみようという意識や機運の醸成にもつながるのではないか。

### <デジタル技術の活用>

- ・ 昨年、向日町競輪場でインターハイの代替大会を開催し、YouTube 配信を行ったところ、毎日3万回の視聴があった。競技場には3万人は来れないが、配信にしたことで、多くの人の興味を引き、今ではそれが当たり前になり、自転車競技以外にも広がっている。コロナとの融合の中で、**新しいスポーツの捉え方ができた**のではないか。
- ・ 競輪競技が、いつでもどこでも YouTube で観戦できるという**選択肢**が生まれることで、これまで躊躇していた人が、競輪の観戦や車券の購入をしていただく機会を増やすことにつながるのではないか。

### ◆論点・視点（まとめ）

- ① 競輪事業の持続可能性（継続的安定的な収益の確保）
- ② 競輪事業の意義・役割（人材育成、スポーツ振興、まちづくり、地域・社会貢献）
- ③ 公益性の担保（負の側面への対応、透明性・安全性の確保）
- ④ 社会経済情勢の変化への対応（自転車競技の変化やデジタル化の進展等への対応）
- ⑤ 老朽化が著しい施設整備のあり方（収支、規模、整備手法、財源確保）

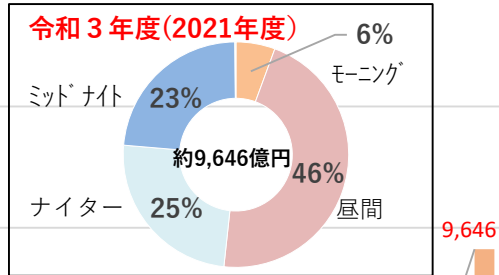
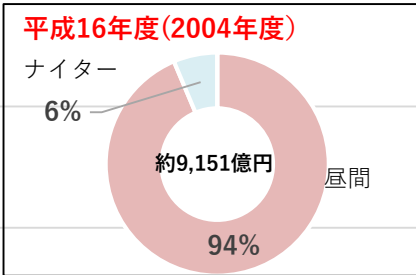
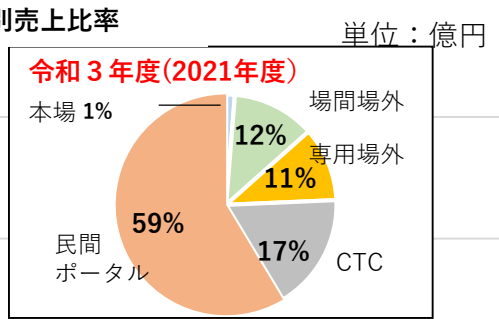
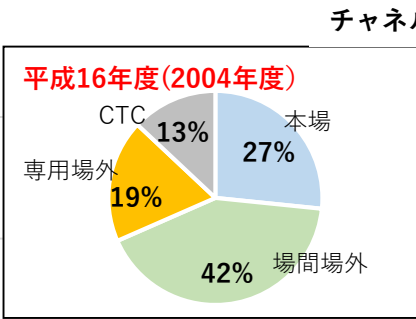
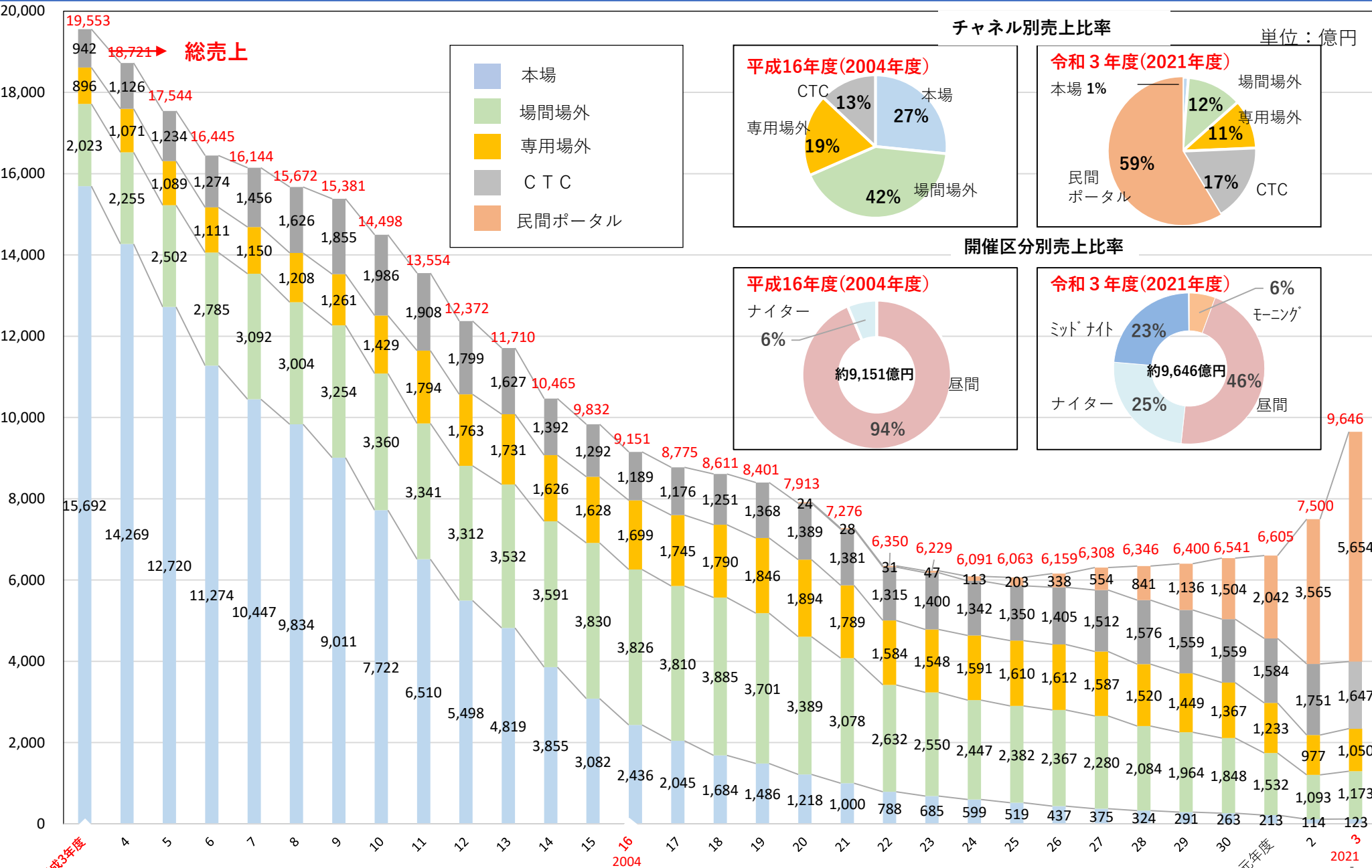
令和4年9月13日  
第2回向日町競輪場外部有識者会議資料



# 競輪事業の現状

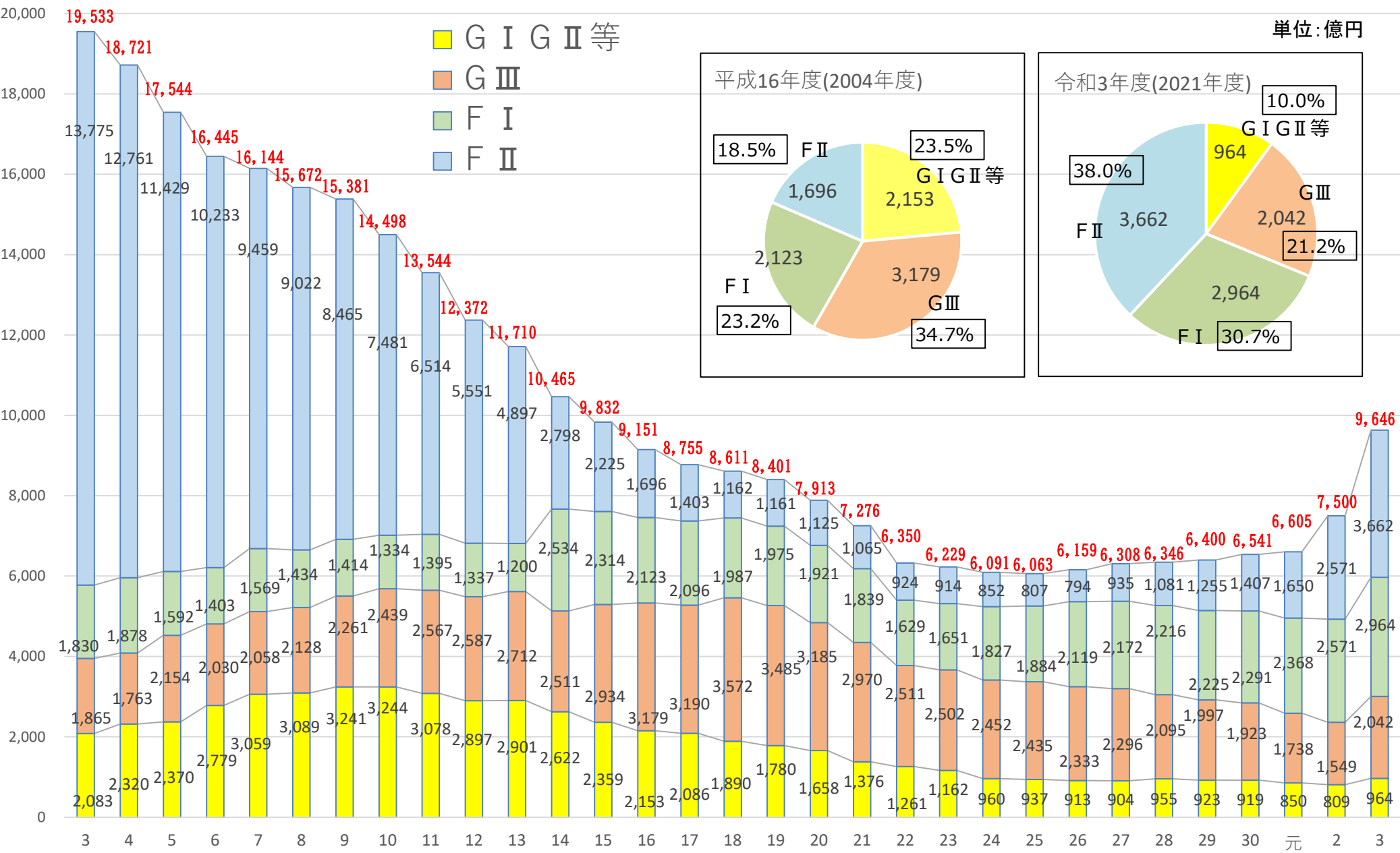
(公社)全国競輪施行者協議会

# 1 チャンネル別売上額推移 平成3年度（1991年度）～令和3年度（2021年度）

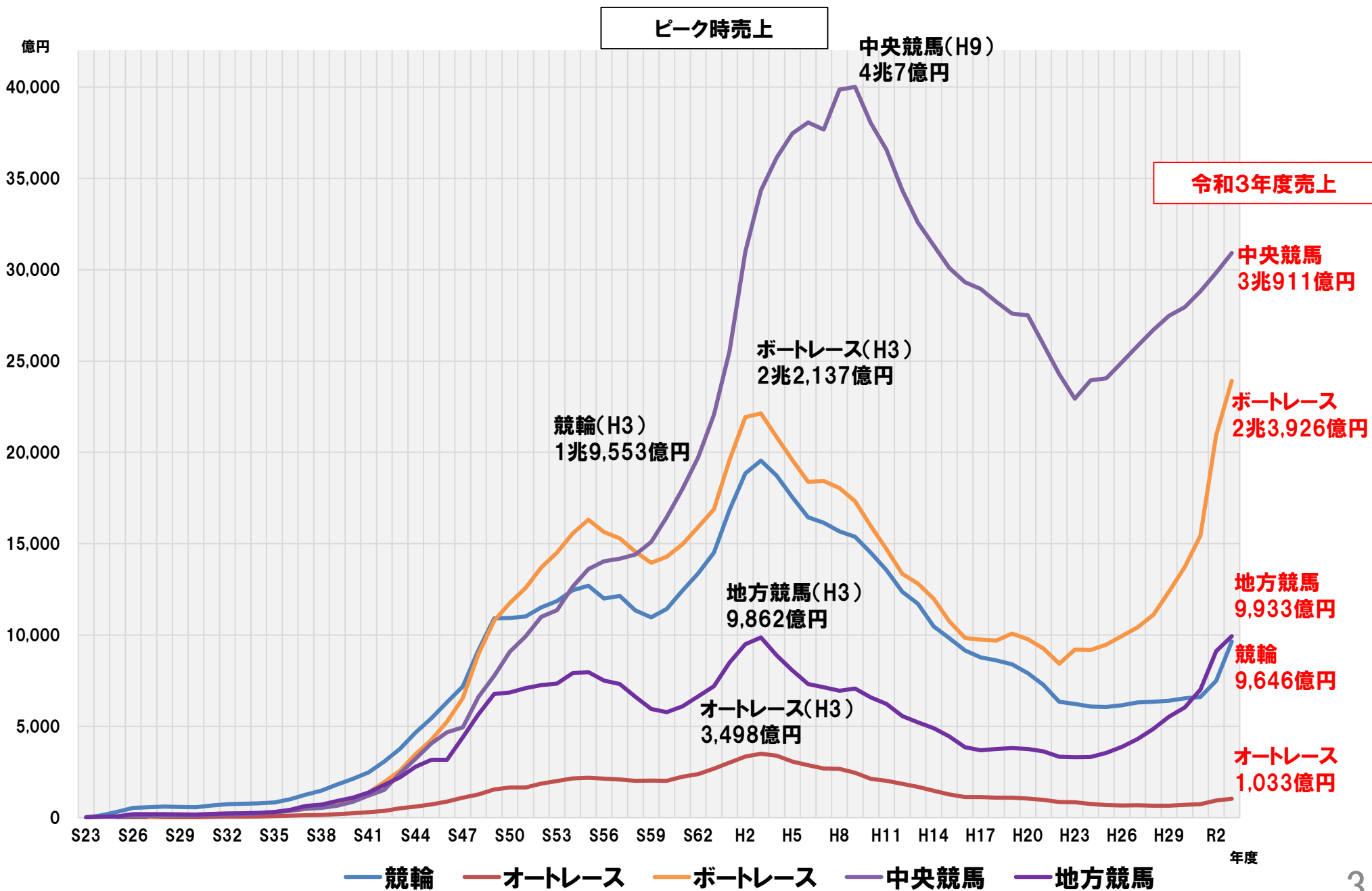


【参考】 開催区分：モーニング\*（8:30～14:30）、昼間（11:00～16:30）、ナイター（15:30～20:30）、ミッドナイト（21:00～23:30）

# 2 グレード別売上額推移 平成3年度(1991年度)～令和3年度(2021年度)

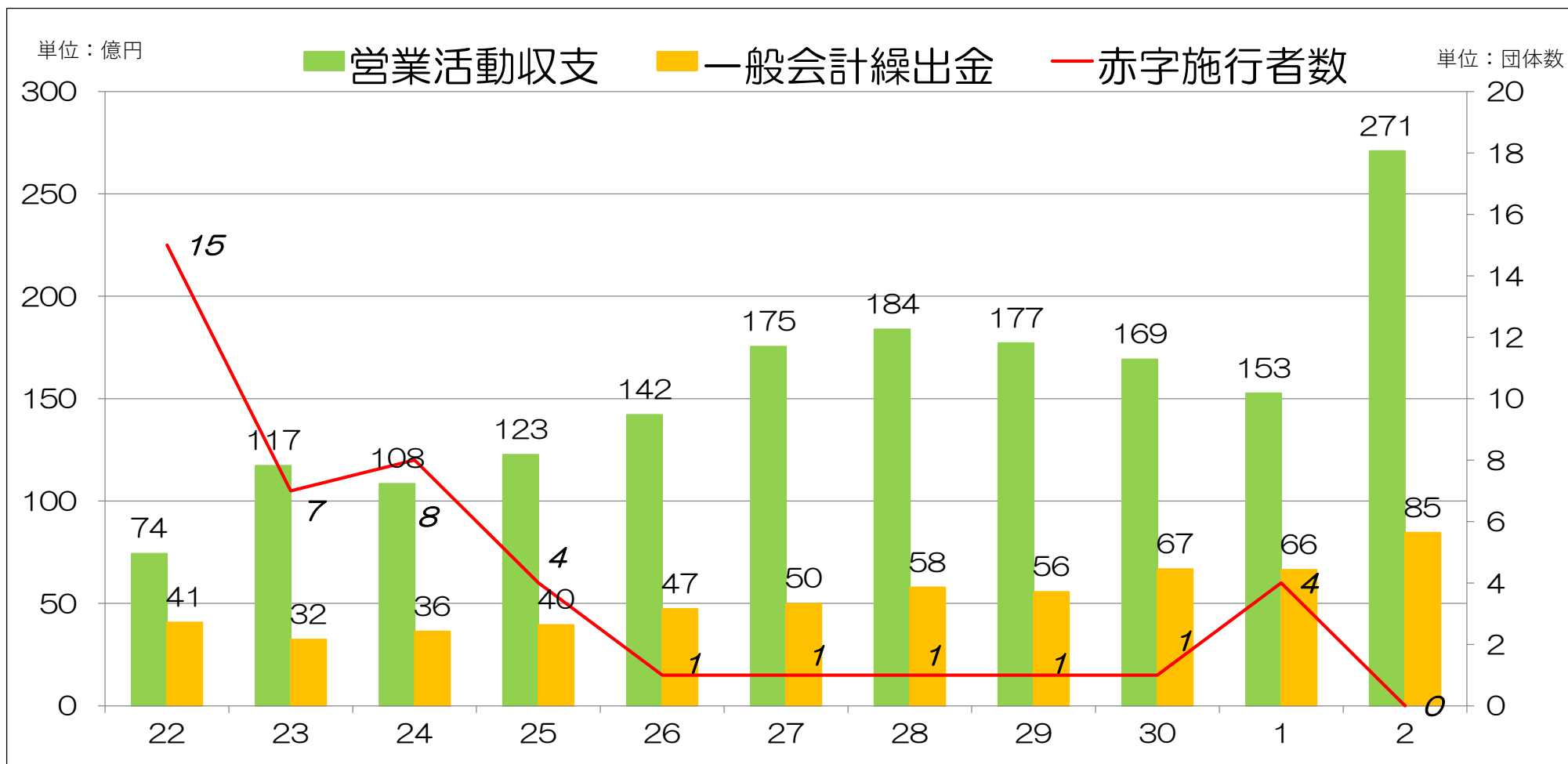


### 3 公営競技の年度別売上推移





## 4 営業活動収支、一般会計繰出金、赤字施行者数の推移



営業活動収支＝営業活動収入－営業活動支出

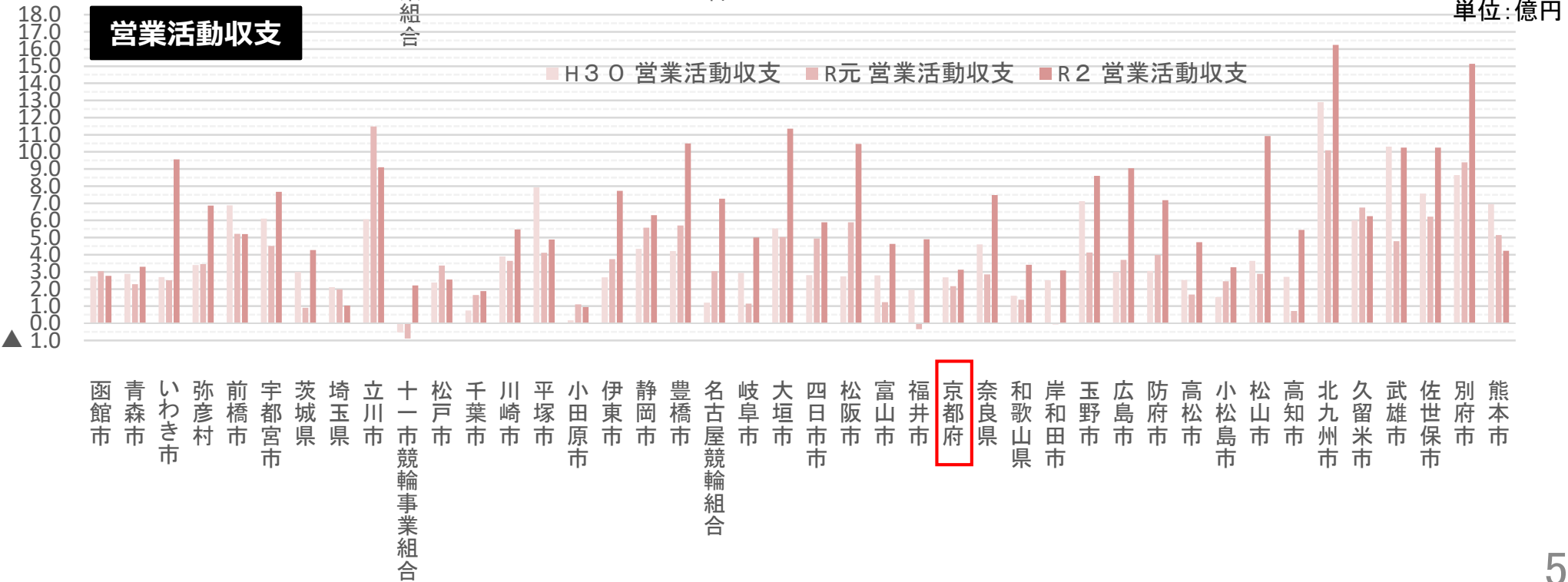
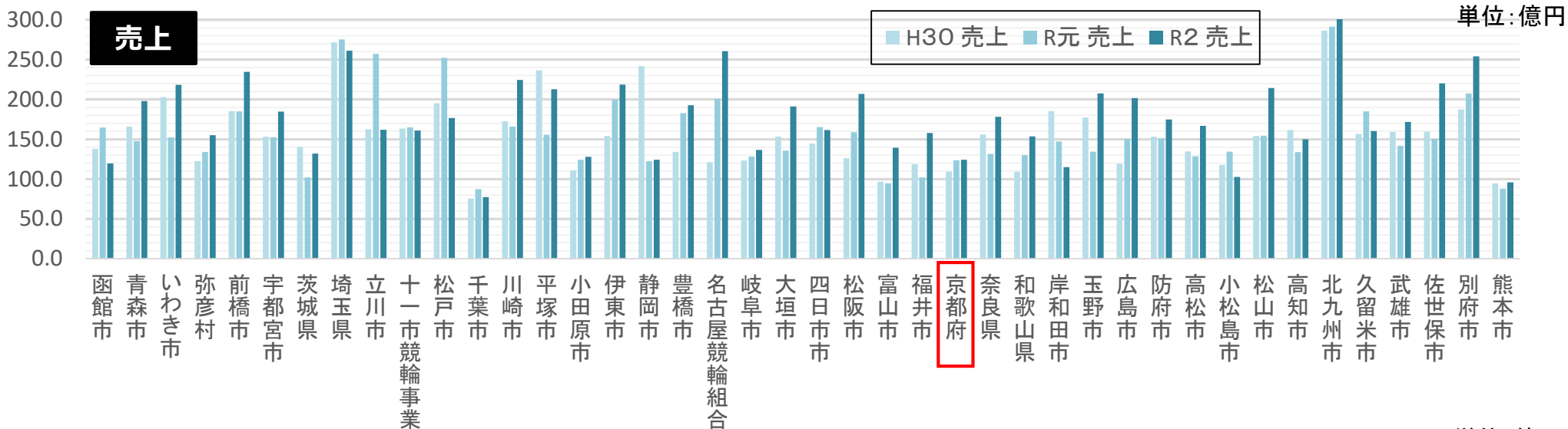
※営業活動収入…競輪事業収入（本場開催分・場外開催分）

営業活動支出…職員人件費、包括委託費、競技委託費、  
業務委託費、競輪場使用料、システム利用料、  
選手賞金、分担金、交付金、広報費、  
販売促進費、払戻金

●一般会計繰出金状況（令和2年度・43施行者中）

繰出金額	施行者数	割合
3億円以上	8	18.6%
1億円以上3億円未満	23	53.5%
1億円未満	8	18.6%
繰出金なし	4	9.3%

# 5 施行者別売上及び営業活動収支の推移（平成30年～令和2年）



# 6 中期基本方針に基づく競輪業界としての取組

## 中期基本方針（令和3年3月25日策定）

競輪事業の持続的発展に資するため、計画期間における競輪業界としての取組方針を定めたもの

【計画期間】 令和3年度（2021年度）～令和7年度（2025年度）

【売上目標】 1兆円 **競輪の社会還元の最大化**

【施行者収益目標】 230億円 **競輪の社会受容性の向上**

- ★自転車競技法に基づく交付金を活用したJKA補助の充実
- ★一般会計への操出、基金積立等による地方財政への貢献



## 【主な取組】

### 魅力的な競輪の考案

- 顧客データの収集・分析
- 収益確保を前提とした開催日数の増加
- ガールズケイリンの見直し
- グレードレースの開催体系分析・改善
- 250競走の実施 等

### 新規価値の創出

- レース映像の集中管理団体の新設
- 著作権の集中管理
- レース映像活用事業の展開 等

### 発売チャネルの整備

- 顧客を呼び込む競輪場の整備
- 場間場外等による発売日数の増加
- 場外車券売場への支援の検討
- 顧客データの分析等に基づく効果的な車券発売体制の構築 等

### 戦略的プロモーション

- 業界横断的な広報戦略の策定
- JKA補助事業プロモーションの効果的な実施
- 選手プロモーションの検討
- 新規顧客の獲得を目的とした企画検討（VR、eスポーツの活用、飲食店との連携など） 等

# 7 ギャンブル等依存症対策

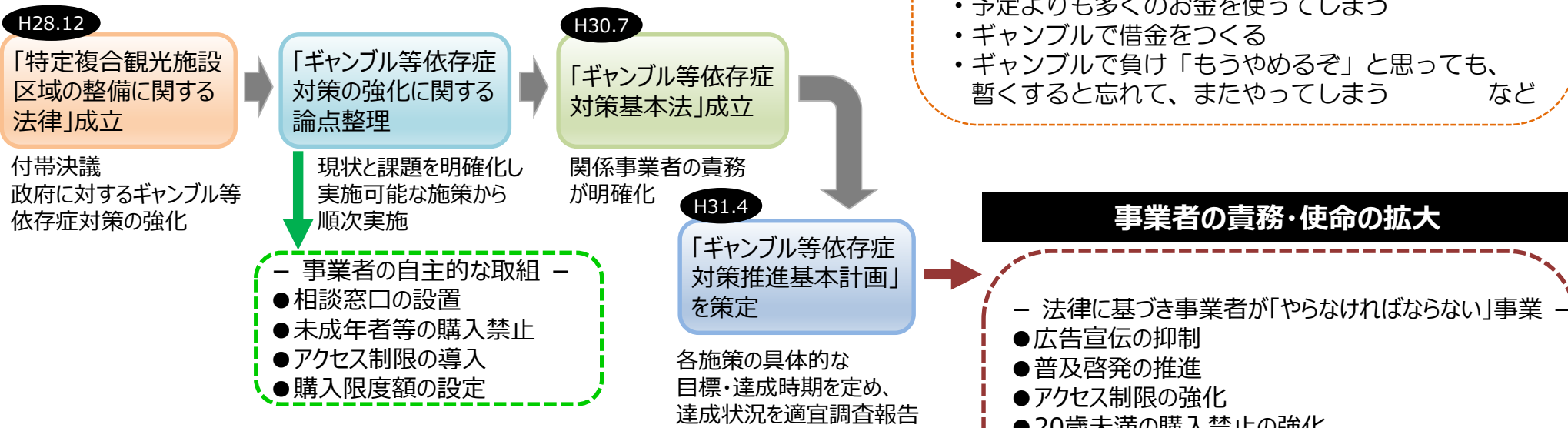
## ■ ギャンブル等依存症とは？

ギャンブル等（公営競技、ぱちんこ屋に係る遊技その他の射幸行為）にのめり込むことにより日常生活又は社会生活に支障が生じている状態【ギャンブル依存症等対策基本法第2条】

### 『ギャンブル依存症』の特徴的な症状

- ギャンブルの負けをギャンブルで取り返そうとする
- 興奮を求めて、どんどん賭け金が増えていく
- ストレス解消や、日常、仕事等の問題から一時的に逃れる手段としてギャンブルをする
- ギャンブルをしないと落ち着かない
- 工作中や、家族、友人と一緒にいる時でも、ギャンブルにすることが頭から離れない
- 予定よりも多くのお金を使ってしまう
- ギャンブルで借金をつくる
- ギャンブルで負け「もうやめるぞ」と思っても、暫くすると忘れて、またやってしまう など

## ■ ギャンブル等依存症対策に関する経緯



## ■ 公営競技におけるギャンブル等依存症対策

公営競技（中央競馬・地方競馬、競輪、オートレース、ボートレース）では、全国公営競技施行者連絡協議会（公連協）において、それぞれの公営競技間の連携を図り、広告宣伝の抑制、普及啓発の推進、アクセス制限の強化等のギャンブル等依存症対策を行っている。

➡ 具体的な取組実績は次ページ

項目	取 組 内 容	実施時期
お客様周知・注意喚起	TVCM、開催告知ポスター等における注意喚起文の明示	平成29年3月～
	競輪場等における注意喚起チラシ、ポスター、ステッカーの掲示、貼付	
	未成年者のみの入場者に対する警備員の声掛けの強化	平成29年6月～
	KEIRIN.JP、発売サイト、競輪場等のホームページにおける注意喚起及び問合せ先の周知	
	競輪場等における場内のモニター、大型ビジョン、デジタルサイネージ、場内放送、出走表への印字等による注意喚起	平成29年3月～
	公営競技共通の広告指針の策定及び競輪の広告・宣伝ガイドラインの策定	令和3年3月
相談窓口	競輪場等における相談窓口の設置	平成29年8月～
	相談窓口への適切な案内及び相談窓口の明示	
	公営競技共通の一元的・専門的相談窓口として「公営競技ギャンブル依存症カウンセリングセンター」を設置、運営	平成30年4月～
体制整備・強化	依存症対策に関する施行者担当者及び責任者の選任	平成29年5月
	施行者担当者向け研修会、JKA役職員向け研修会の実施	令和元年度～
	都道府県等が開催する連携会議等に施行者が地域の関係機関の一つとして積極的に参画	
	全輪協及びJKAで構成する「競輪ギャンブル依存症対策推進会議」の設置	令和2年3月
	競輪ギャンブル依存症対策実施規程の策定	令和3年3月
アクセス制限強化	本人又は家族からの申請によるアクセス制限実施のための仕組みの構築(施行者規則改正、運用基準の整備)	平成29年10月
	インターネット投票における購入限度額設定の仕組みの導入(競輪オフィシャルサイト及び民間ポータルサイト4社のうち3社は導入済。残る民間ポータルサイト1社は2023年3月までに導入予定)	令和4年3月～
	個人認証システムの導入検討	平成31年4月～
のめり込み防止・その他	競輪場等におけるATMのキャッシング機能の廃止及び順次撤去	
	ギャンブル等依存症問題啓発週間における啓発ポスターの作成、大学生を対象としたセミナーの開催	令和元年度～
	JKA補助事業において依存症対策事業が補助の対象であることの周知	
	セルフチェックツールの作成	令和3年3月

# 向日町競輪場の特徴

～ 他の競輪場との比較 ～

# 1 売上等の状況

## ○売上額(令和3年度)

(年間) 234.1億円<全国19位>

→平成29年度に比べ大幅アップ(全国的にも同傾向)

全国トップ:370.7億円  
全国最下位:115.7億円

## ○ネット売上率(令和3年度)

(ネット売上) 78.7%<全国13位>

→平成29年度に比べネット売上の比率が大幅アップ(全国的にも同傾向)

全国トップ:85.87%  
全国最下位:63.54%

## ○収益額(令和2・3年度)

(年間) ② 3.1億円<全国34位> ③ 9.4億円<全国データなし>

→平成29年度(2.4億円)に比べ大幅アップ

全国トップ:16.25億円  
全国最下位:0.95億円

## ○収益率(令和2・3年度)

(収益/売上) ② 3.28%<全国24位> ③ 3.99%<全国データなし>

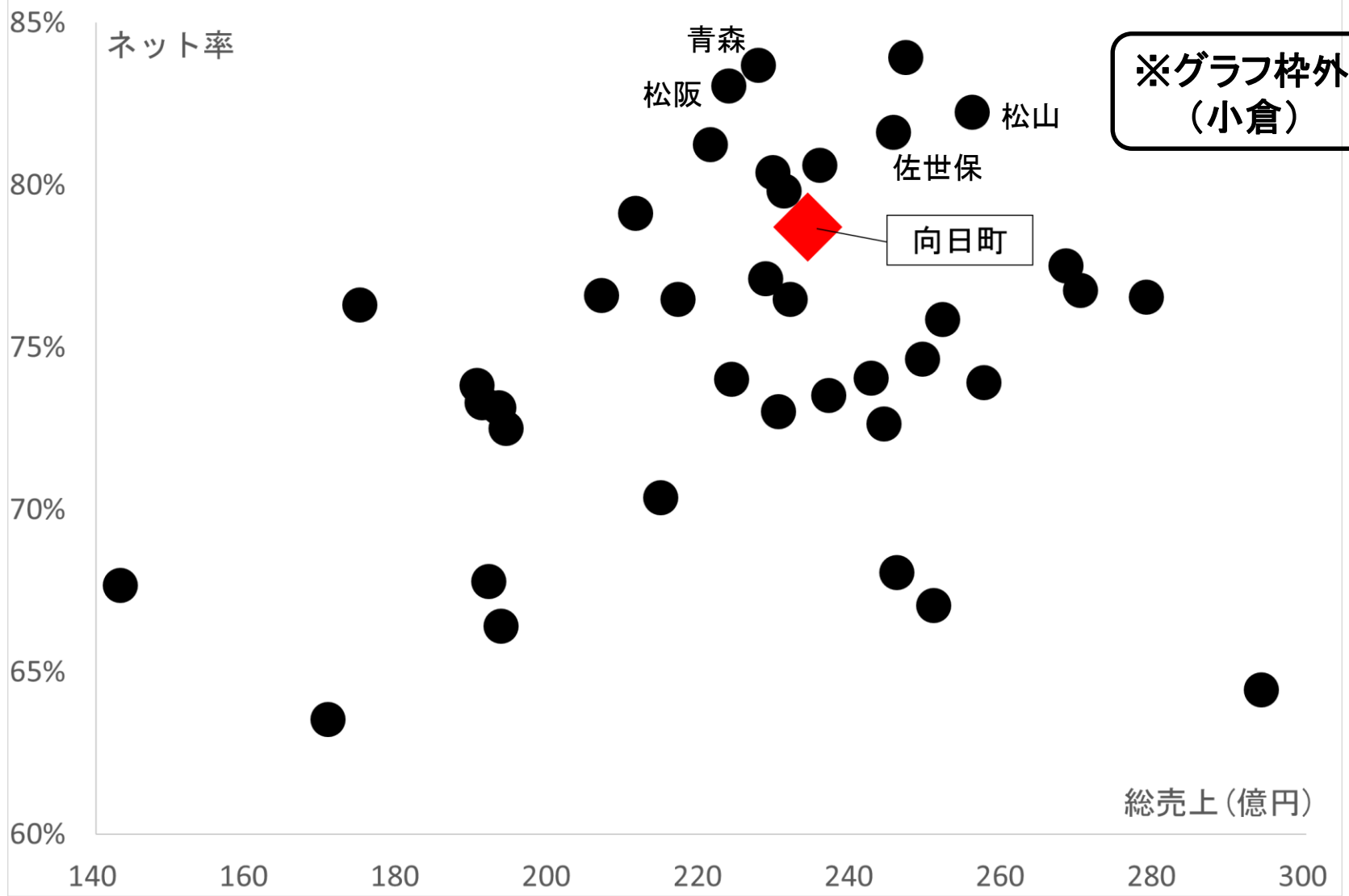
→平成29年度(0.79%)に比べ大幅アップ

全国トップ:6.21%  
全国最下位:0.79%

## ※その他参考

- ・一般会計繰出金(②③~②)累計15億円<全国4位>
- ・地方公共団体金融機構納付金(②)18百万円<全国25場はゼロ>

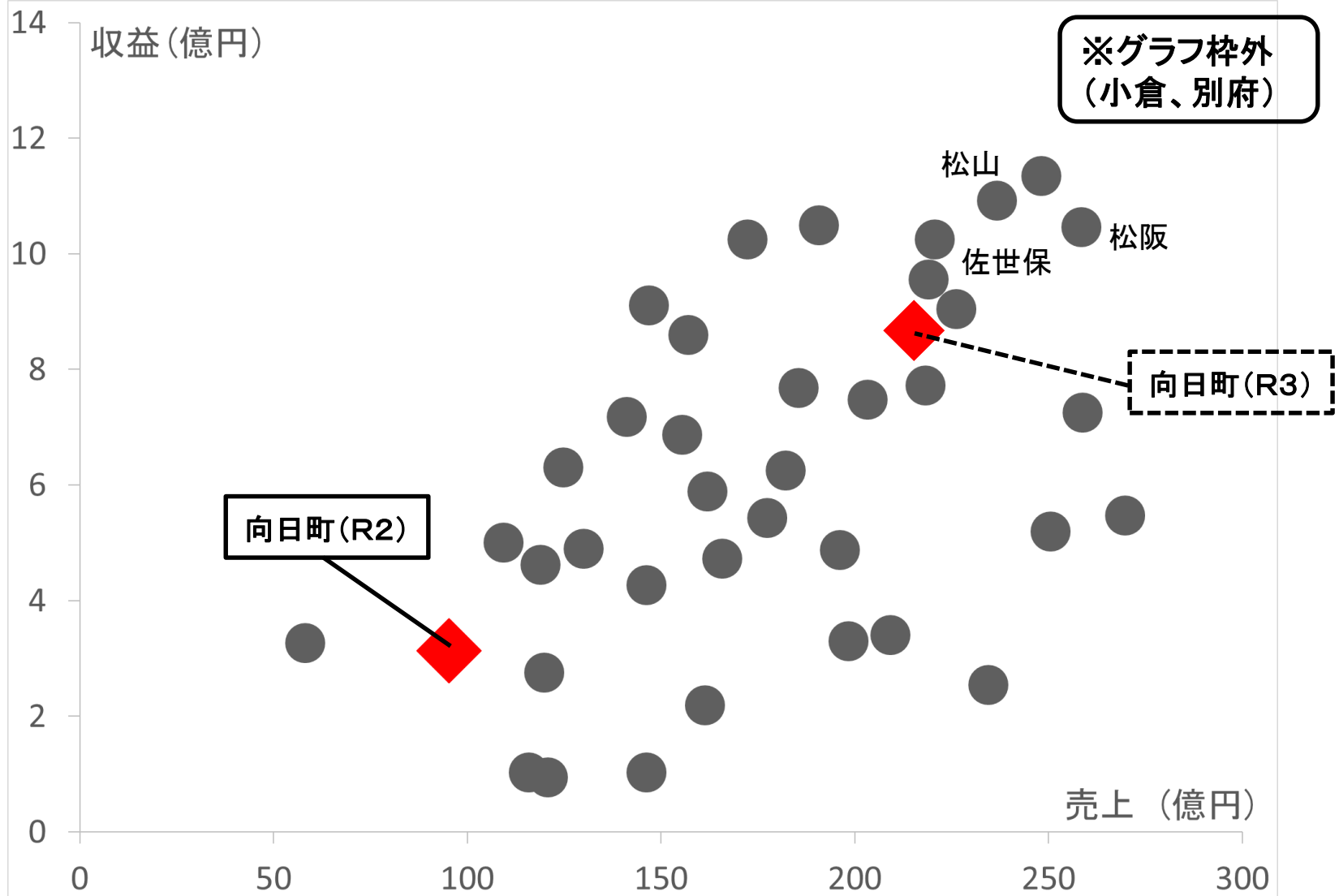
# 1-1 ネット売上率(R3・ネット/総売上)全国分布



- ・売上220~260億円の競輪場がネット売上率が高い。
- ・青森、松阪、松山、佐世保など、地方の競輪場はネット売上率が高い。



# 1-2 収益率 (R2・収益/売上)全国分布



- ・売上が高いほど、収益が高い傾向。
- ・松阪、松山、佐世保など、ネット売上率の高い競輪場は収益も高い。

# 2-1 運営・体制及び開催区分

## ○法律・条例(目的)との関係

- ・自転車競技法(第1条)
  - ①自転車等機械改良・輸出振興、機械工業の合理化
  - ②体育事業その他の公益の増進
  - ③地方財政の健全化
- ・京都府営自転車競技条例、向日町競輪場並びに管理条例(第1条)
  - ①自転車競技放題1条の規定により自転車競技を行う。

→これまで、京都府では③がメイン。②は向日市に管理委託、①はJKAが実施。

## ○職員・従業員体制(R4)

- ・25人(職員5人、従業員(包括委託)20人) <全国40位>
  - H29(職員7人、従業員51人(直接雇用))と比べ、人件費が大きく減少。
- ・職員・従業員一人当たり売上(③) 9.36億円 <全国3位>
- ・職員・従業員一人当たり利益(②) 0.13億円 <全国14位>
  - 人件費コストが低いため、生産性は高い。

### ※その他参考

- ・入場料:本場開催のみ50円(無料化した場:18場)
- ・ネーミングライツ:実績なし(導入した場:7場)

## 2-2 運営・体制及び開催区分

### ○民間包括委託(平成29年度～)

- ・人件費等の固定費縮減の継続、変動費の抑制が課題。
- ・高校自転車競技部のバンク利用、BMXフリースタイルコースの設置運営等、競技人材育成やサイクルスポーツの裾野の拡大を推進。

### ○投票窓口(令和4年度)

投票窓口の自動化(無人化)率 93.8% <全国3位>

### ○開催内容(令和4年度)

\* 昼間の通常開催の他、ミッドナイト競輪(20:30～23:30)を実施

(ミッドナイト競輪) 実施: 27競輪場 ※ミッドナイトは開催枠いっぱい(年8回)まで実施。

(ナイター競輪) 実施: 26競輪場(未実施)

(モーニング競輪) 実施: 25競輪場(未実施)

→ さらなる増収にはナイター等の実施も検討。ただし地域の理解が必要

### ○来場者数(令和3年度)

年間 24,368人 <全国23位> \* 1日当たり840人 <全国21位>

\* 一人当たり購買単価8,600円/人 <全国26位>。購買単価は向日町も含め全国的にも減少傾向。

# 3 立地・敷地の状況

## ○敷地面積・収容人数

(敷地面積) 56, 535. 89㎡ <全国18位> (収容人数) 20, 000人 <全国11位>

→来場者の減少を踏まえた施設のコンパクト化と余剰土地の有効活用が課題。

※ピーク(昭和46年度) 974,777人/年(1日当たり 13,538人)

## ○財産区分

行政財産(全国→普通財産29場、行政財産10場、混在2場、民間2場)

→時代に即した柔軟な敷地利用に課題。

## ○都市計画

近隣商業地域(建蔽率80%、容積率200%) 特別用途地区(娯楽・レクリエーション地区)

## ○アクセス

阪急東向日駅・徒歩約10分、JR向日町駅・約15分。 阪急バス・無料送迎。

## ○土地形状

場内全体が西から東に傾斜しており、敷地の有効活用には整地が必要。

## ○防災関係

指定緊急避難場所、指定避難場所。備蓄倉庫あり。

# 4 施設の状況

## ○バンク

- ・大規模改修は昭和61年度が最後。  
(平成以降、大規模改修していないのは、向日町以外は全国で2場のみ)

## ○投票所・管理スペース

- ・常時稼働は、中央投票所と第1投票所。第3投票所はGⅢレース時のみ活用。第2・4・5投票所は閉鎖。 →施設コンパクト化が重要
- ・場外・サテライト車券売場なし(全国28場で設置)。前売・早朝投票所なし(全国34場で設置)。キャッシュレス対応なし。(全国7場で導入)  
→今後のDX時代への適応が課題
- ・集計等システムの陳腐化(メーカーの製造中止)、電気系統の老朽化。

## ○選手宿舎

- ・平成4年度に整備。(全国で11番目に古い)。整備は場内。(全国32カ所)  
→風呂が一つしかなく男女入替は時間制。トイレの洋式化進まず。

## ○駐車場

収容1,260台(大部分は敷地外に分散。徒歩約5分。利便性に課題)

# 5 近隣スポーツ施設の状況①



# 5 近隣スポーツ施設の状況②

## ○周辺スポーツ施設の概要

施設名	施設面積(m <sup>2</sup> )	収容人数(席)	備 考
サンガスタジアムby KYOCERA	33,140	21,600	
西京極総合運動公園	180,857	20,570	※収容人数は陸上競技場兼球技場座席数
ハンナリーズアリーナ(京都市体育館)	14,443	2,500	
島津アリーナ京都(府立体育館)	12,843	8,000	
向日町競輪場	56,535	20,000	

※その他、乙訓地域及び周辺区のスポーツ施設として、向日市民体育館（大体育室、小体育室、会議室等）、府立伏見港公園（体育館、テニスコート、プール等）、長岡京市立スポーツセンター（体育館、グラウンド、テニスコート）、西山公園体育館（大体育室、小体育室、武道場等）、大山崎町体育館（大体育室、小体育室、研修室等）が存在する。

→従来型の体育館や運動公園は多いが、BMXやアーバンスポーツに対応する施設はあまりない。

- ・BMXパーク(フリースタイル)→向日町競輪場
- ・3×3、ボルダリング →サンガスタジアム

# 6 圏域人口の状況

## ○周辺地域の人口推移

<乙訓地域>	平成22年	令和2年	<隣接3区>	平成22年	令和2年
向日市	54,328	56,859	南区	98,744	101,970
長岡京市	79,844	80,608	伏見区	284,085	277,858
大山崎町	15,121	15,953	西京区	152,974	149,837
計	149,293	153,420	計	535,803	529,665
			合計	685,096	683,085

※平成22年及び令和2年の国勢調査結果を基に作成

周辺地域の人口推移に大きな変化はないが、競輪場周辺5km<sup>2</sup>のゼロ～4歳児の人口構成比が全国3位であり、子育て世代が多く居住していると推測できる。



# 他の競輪場の状況

# 目次

## 1.他の競輪場の取組

---

- |                   |   |
|-------------------|---|
| (1) 社会経済情勢の変化への対応 | 3 |
| (2) 地域貢献・地域振興の取組  | 4 |

## 2.他の競輪場の状況（類型別）

---

- |                      |    |
|----------------------|----|
| (1) 施設・機能の集約化を進めた競輪場 | 7  |
| (2) 街中にある競輪場         | 12 |
| (3) 今後のあり方を検討していた競輪場 | 18 |

## 3.事業継続に必要な施設・機能

---

- |                         |    |
|-------------------------|----|
| (1) 事業継続に必要な施設・機能（イメージ） | 21 |
| (2) 財源の確保               | 23 |

# 1. 他の競輪場の取組

---

- (1) 社会経済情勢の変化への対応
- (2) 地域貢献・地域振興の取組

# (1)社会経済情勢の変化への対応

## <ハード面>

- ・ インターネット投票の増加やミッドナイト競輪の開催等による来場者の減少などを踏まえた、施設や機能の集約化、老朽化施設の除却
- ・ 来場者の利便性の向上のための、観戦スペース(大型モニター、空調等)の整備、エントランス、食堂・売店、キッズルームの整備や駐車場の集約化

## <ソフト面>

- ・ 入場料の無料化
- ・ 競輪場の命名権(ネーミングライツ)を募集し、民間企業と競輪場で行うイベントや各種プロモーションにおいて連携
- ・ 来場者の確保・利便性の向上や賑わいづくりのための、ゾーニング・取組の実施・検討

(ゾーニング(例)) 観戦、エントランス、市民交流、管理運営

(検討内容(例))

- ◇ 公営競技ファンの獲得(他の競輪場や公営競技とのコラボ)
- ◇ 競輪ファン以外の獲得  
(自転車関連スポーツの紹介・体験、競輪関連以外のイベントの開催)
- ◇ 観光・交流拠点(競輪場を核とした賑わいづくり)

## (2)地域貢献・地域振興の取組

### <ハード面>

・地域に開かれた、地域に親しまれる競輪場を目指し、施設の集約化等と併せ、空きスペースを活用した公園、イベントステージ、BMXコース、選手宿舎と一体となったホテルなど、市民開放・地域振興に向けた施設の整備



出所：武雄競輪場HP



出所：川崎競輪場HP



出所：岸和田競輪場HP



出所：玉野競輪場HP

## (2)地域貢献・地域振興の取組（つづき）

### <ソフト面>

#### （地域の防災拠点）

- 広域避難場所、帰宅困難者一時滞在施設として、食糧等を備蓄
- 電力確保のための、太陽光発電設備の設置

#### （地域コミュニティの拠点）

- バンク内、空きスペースの、市民まつり、自治会行事、物産展等の開催

#### （スポーツ振興）

- バンクリーグ（BMX）の開催、サイクルクラブの運営

#### （その他）

- 一般会計への繰出金の主な用途（教育、福祉、土木関係が多い）
- 選手宿舎の一般開放
- 競輪事業の活性化、ファンの新規開拓のための、「〇〇社杯」や「〇〇さん〇〇記念」など企業名や個人名の入った協賛レースの実施
- 鉄道事業者などと連携したウォーキングイベントの開催
- 他のスポーツ（Jリーグ、Bリーグ）との連携したプロモーションの実施

## 2. 他の競輪場の状況（類型別）

---

### (1) 施設・機能の集約化を進めた競輪場

- ① 玉野競輪場（岡山県玉野市）
- ② 武雄競輪場（佐賀県武雄市）

### (2) 街中にある競輪場

- ③ 岸和田競輪場（大阪府岸和田市）
- ④ 川崎競輪場（神奈川県川崎市）
- ⑤ 豊橋競輪場（愛知県豊橋市）

### (3) 今後のあり方を検討していた競輪場

- ⑥ 奈良競輪場（奈良県）
- ⑦ 小田原競輪場（神奈川県小田原市）

①

# 玉野競輪場





# 施設整備のコンセプト (玉野競輪場施設整備基本計画より)

- ・ 老朽化した施設の撤去・更新を行うと同時に、サービス機能、運営機能等の集約を行い、コンパクトな運営を実現
- ・ 老朽化した施設の除去により、確保できるゾーンについては、地域の活動に利用できるようなスペースとして開放できるような整備も検討

- ・ 地域文化・観光交流の拠点となる競輪場  
(海とアートを感じる競輪場)
- ・ お客様の快適な観戦環境を提供する競輪場
- ・ 地域社会と共生した競輪場 (市民交流拠点、防災拠点)

## <ゾーニング>

- ・ メイン観戦ゾーン
- ・ エントランスゾーン
- ・ 市民交流ゾーン
- ・ 管理運営ゾーン

# 施設の老朽化や観戦スタイルの変化への対応

- ◆ 施設の老朽化や観戦スタイルの変化に対応するため、大規模リニューアル
  - ◆ 日本初のスタジアム併設型ホテル(選手宿舎)
  - ◆ 観客席、レストランなどを備えたスタンド棟

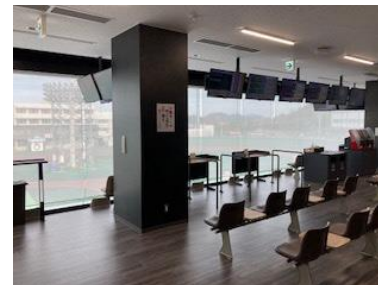
## <ホテル>

- ◆ テラスが設けられた客室からは、瀬戸内海の景観を楽しめるほか、競輪開催時にはレース観戦が可能(選手宿舎の役割も)



## <スタンド棟>

- ◆ レースを観戦しながら瀬戸内の食材を使った料理が楽しめるレストラン
- ◆ 迫力あるレースを間近で楽しめる観客席、グループで楽しめるプレミアムラウンジ、ベビー休憩室など



②

# 武雄競輪場



公園エリア



# 施設整備のコンセプト

- **環境にやさしい施設** (できるだけ緑化)
- **開放された施設** (施設内動線をシンプルに、視界の開けた空間、芝生広場などふれあい空間の整備)
- **施設のコンパクト化** (機能の集約化・施設の合理化)

- **来場者数に対して過大で、老朽化**している中央スタンド・サイドスタンドをコンパクトに集約化 (解体の上、新設)

- ◆ **お客様スペースを約1/3にコンパクト化**

(収容人数: 約7800人 → 約1000人)

- ◆ 全館冷暖房完備、場内映像HD化による鮮明な映像の提供

- ◆ 屋外に間近でレース観戦ができる芝生スタンドを造成 (サイドスタンドを撤去)

- ◆ 家族連れが気軽に来場できるよう、**隣接する駐車場に公園を整備**し、大型遊具、ミニBMXコースを設置

- **損傷の著しいバンクの全面改修**



# ③

# 岸和田競輪場

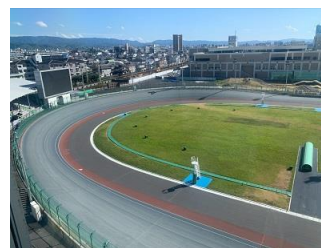


# 施設整備の趣旨 (岸和田競輪場施設整備計画より)

・ 競輪参加選手やお客様の安全性確保などから整備の緊急性が高く、整備を行わなければ、特別競輪の誘致にも影響するため、整備を行う。

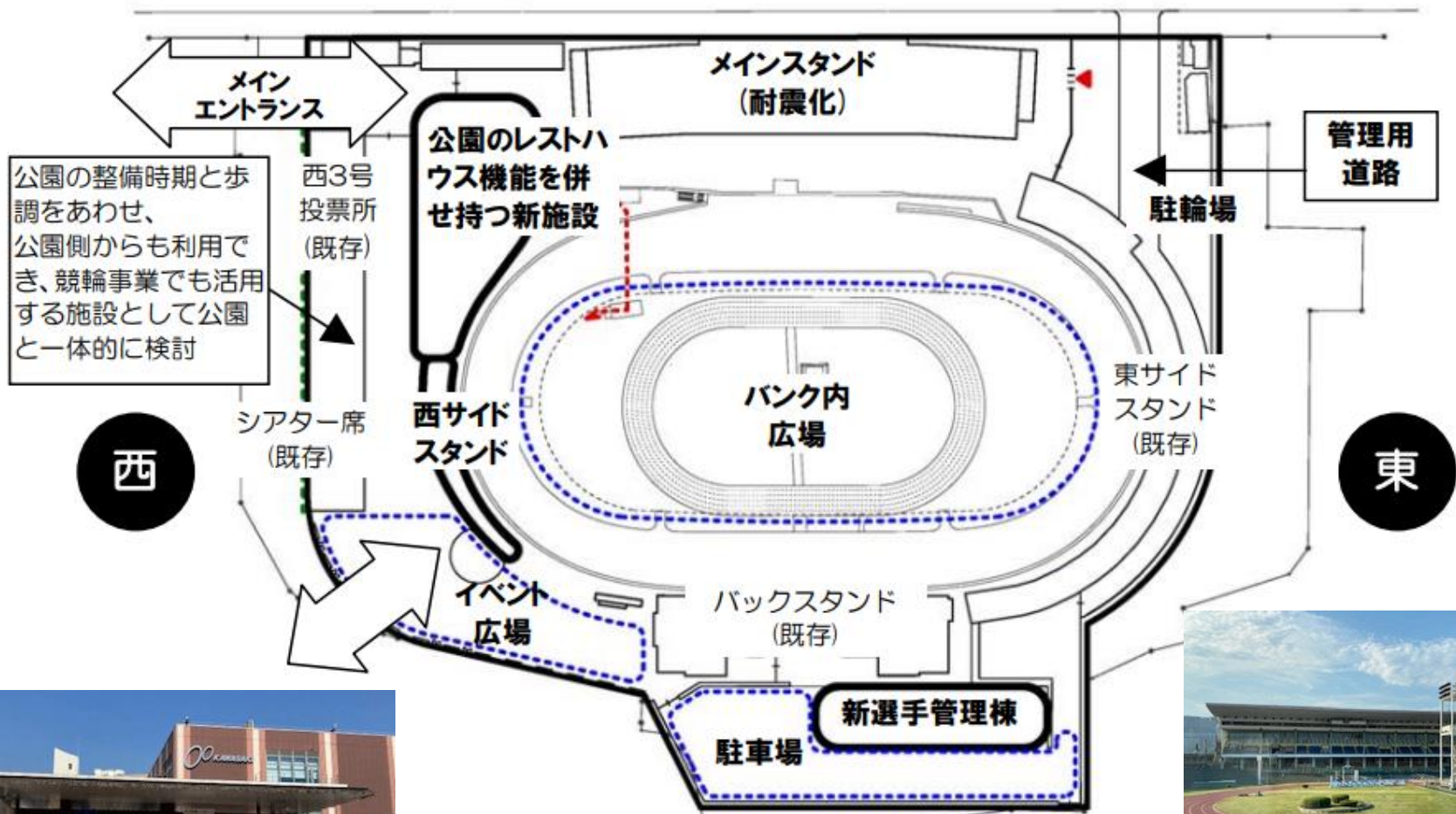
・ 来場者数の減や維持管理コストを勘案し、サイドスタンドの除去や事務所の選手管理棟への移設等、施設のコンパクト化を実施 (収容人員:24,000人→11,500人)

- ① 競走路の劣化に対する対応
- ② 選手管理棟の老朽化への対応
- ③ サイドスタンドの老朽化への対応 (過大な部分は除却)
- ④ メインスタンドのリニューアル (お客様のニーズへの対応)
- ⑤ その他 (周辺施設の整備)



# ④

# 川崎競輪場



西

東

南



# 施設整備のコンセプト（川崎競輪場再整備基本計画より）

## <メインコンセプト>

- I 公園との一体感を感じられる空間づくり
- II 持続可能な事業運営の確立に向けた施設づくり

## <主な取組>

- ・ 競輪場のコンパクト化、公園との調和
- ・ 市民開放・市民利用の促進
- ・ 耐震化の実施、分散施設の集約化

- ・ 平成24年度以降、再整備を順次実施（現在も継続中）
- ・ 再整備の大きなポイントの1つである競輪場のコンパクト化（平成30年9月完了）により生じた面積（約7,500㎡）について、都市公園区域に編入

川崎競輪場は、富士通スタジアム川崎（総合球技場）、富士見球場、多目的広場など様々な市民利用施設が立地する富士見公園（都市公園）内に立地



⑤

# 豊橋競輪場



出所: 豊橋競輪場HP

<第1期計画(平成28~30年度)>

安全・公正なレース運営を目的として、バンク(全面改修)・競技管理棟の改修(バックスタンドを改築)、ナイター用照明設備の設置など競技運営に関わる  
マネージメントゾーンを整備



# 施設整備のコンセプト

- **お客様に快適な環境を提供**  
(老朽機能の更新、バリアフリー対応)
- **コンパクトな施設運営・マネジメント**  
(入場者数に見合った施設規模への集約、コンパクトな施設運営の実現)
- **地域も含め、多くの人々が楽しめる施設づくり**  
(余剰スペースを、様々な活動に利用できるスペースとして開放)

## <ゾーン設定>

レースエンジョイ ゾーン	お客様がレース観戦を楽しむための場所とし、 お客様へのサービスを担う
マネージメント ゾーン	競輪運営のために、試行者、選手、マスコミ関 係者にとって必要となる場所
ウェルカム ゾーン	競輪場の玄関口として、お客様を迎え入れるた めのサービスを担う
コミュニティ ゾーン	地域の方々にも活用したいただく場所として、広 く開放

# 今後のあり方を検討① (⑥ 奈良競輪場)

## ■奈良競輪場 令和3年7月 奈良県営競輪あり方検討委員会

＜平成4年度以降の競輪事業の方向性＞

・平成25年度以降、黒字で推移しており、現在の経営状況及び施設整備を含めた今後の収支見込みでは、平成4年度以降も継続可能な状況

・新型コロナウイルス感染症の影響について、注視が必要

→令和8年度までの5年間は引き続き競輪事業を実施  
(この5年間は、経営安定化を図る期間とする)

・方向性を踏まえ、令和4～8年度については、不要な施設を順次除却し、競輪事業の継続に必要な施設の整備を実施

(競輪事業に必要な施設の整備)

- ・バンク改修・照明設置
- ・スタンド耐震改修
- ・不要施設除却
- ・各種設備(空調等)更新

＜今後の取組(検討事項)＞

- 老朽化した施設への対応
- 地域に親しまれる競輪場
- 健全に競輪を楽しむ取組

# 今後のあり方を検討② (7) 小田原競輪場

■ **小田原競輪場** 令和3年11月 小田原競輪の今後に向けた検討会議

＜今後の方向性＞

「今後も、様々な経営改善策※に取り組みながら、必要な施設整備改修を計画的に実施し、その上で、一般会計への繰り出しが見込めることから、当面の間、競輪事業を継続すべき」との結論に至る。

ただし、「赤字、若しくは赤字が予測される状況となった場合には廃止を検討する」との方針を引き続き堅持

※ 民間包括委託の実施、ミッドナイト競輪・モーニング競輪・ガールズ競輪の開催

- ・ 施設現況等調査を実施(令和元・2年度)し、15年以内に必要な改修費用の総額の概算を把握(現有施設を引き続き活用することを前提に)
- ・ 施設改善基金を設置(令和4年3月)し、必要な資金を確保することで、一定の改修を計画的に実施(改修内容や優先順位を整理の上、基金積立額の範囲内で実施)

# 3.事業継続に必要なとなる 施設・機能

---

- (1) 事業継続に必要なとなる施設・機能  
(イメージ)
- (2) 財源の確保

# 事業継続に必要な施設・機能（イメージ）

施設	機能	施設・機能の内容
バンク、照明設備		
集計センター、事務所 (施行者・受託事業者)		※メインスタンド内など
選手宿舎		居室、浴室、食堂 等
選手管理センター		検車場、選手控室、医務室、記者室 等
観覧・投票施設 (メインスタンド)	観覧機能、投票機能、 情報発信機能、休憩 機能	発売所、観覧スペース(一 般、特別、来賓)、開催 本部 等
飲食施設・売店、 案内・ガイダンスコーナー	情報発信機能、休憩 機能	※メインスタンド内など
エントランス	エントランス機能	正門、駐車場・駐輪場、 バス停車スペース 等
場外・前売発売所	投票機能	※エントランスの一部 (向日町は非設置)

# 事業継続に必要な施設・機能（イメージ）

## ■向日町競輪場において、特に対応が必要なもの

### ①競走路（バンク）の全面改修

昭和61年度以降大規模改修を実施していない。

### ②システム（トータリゼータシステム※等）の更新

メーカーの製造停止により、交換部品がなく故障時に修理ができない。

※公営競技における、オッズ（購入した馬券等が的中した際の戻り倍率）の表示、集計、投票券の発券、配当金の計算、払い戻しまでの一連の業務をコンピューターで一括処理するシステム

### ③メインスタンドの改修、投票所・駐車場の再整備

施設・機能の集約化、観覧環境の整備（バリアフリー・空調対応、トイレ洋式化等）ができていない。

### ④老朽化施設（耐震基準を満たさない施設）の除却

大部分が昭和40年代に建設のため、老朽化。特に、第4・5投票所（閉鎖中）は耐震基準を満たしていない。

# 財源の確保（施設整備基金、地方債）

- ・ 他の競輪場では、**収益の一部について施設整備基金に積み立てを行い、資金を留保**。必要に応じて取り崩しを行い、施設整備を実施
- ・ **地方債により資金を確保**している事例もある。

## ■施設整備基金の設置状況

全国 43競輪場のうち、向日町を除く42競輪場で基金（うち**施設整備基金は35競輪場**）を設置

## ■近年の施設整備基金の設置事例

- ・ **小田原競輪場**（令和4年3月設置）

今後の方向性（当面の間、競輪事業を継続）を踏まえ、必要な施設改修を計画的に実施するため、基金を設置

＜向日町競輪場における施設整備に活用可能な財源＞

繰越金 18.4億円（令和3年度末時点）



# 自転車競技と競輪場（自転車競技場）の魅力と可能性

資料 5



# 動画①

R4全国高校総体 北桑田高校優勝

# 動画②（ベロドローム）

R4全日本自転車競技選手権  
三宅太生選手（北桑田）優勝（日本新）

## 動画③（世界選手権）

R4世界自転車競技選手権（イスラエル）  
岡本美咲選手（北桑田） 4位（日本新）

# R 4 年度全国高校総体自転車競技

4 k m チーム パーシュー ト 連 覇 ・ 4 k m 速 度 競 争 優 勝 等 入 賞 多 数

**学 校 対 抗 ト ラ ッ ク 2 位 、 ロ ー ド 優 勝 、 総 合 2 位**

**北 桑 田 高 校 の 活 躍 は 向 日 町 競 輪 場 無 く し て は あ り 得 ま せ ン !**



## 令 和 4 年 度 全 国 高 等 学 校 総 合 体 育 大 会

秩 父 宮 記 念 杯 第 73 回 全 国 高 等 学 校 対 抗 自 転 車 競 技 選 手 権 大 会 第 67 回 全 国 高 等 学 校 自 転 車 道 路 競 走 中 央 大 会



# 自転車競技の魅力と課題について

## 【 魅 力 】

- 自力（人力）で感じるスピード感・空気感・達成感（坂バカ）
- トラック競技のスピード・臨場感、記録への挑戦・駆け引き等  
多様な種目の魅力
- SDGs、コロナ禍、健康ブームによる自転車ブーム（世界的）
- サイクリングブーム（「ビワイチ」「TANTANロングライド」等）
- アニメ「弱虫ペダル」によるロードレースの根強い人気
- 物（モノ）としての自転車の魅力（最もシンプルで美しい乗り物）
- オリンピック・パラリンピックでのトラック競技の活躍

※陸上競技やスケート競技との類似。日本人の適性

# 自転車競技の魅力と課題について

## 【 課 題 】

### ➤トラック競技の認知不足

※バンク＝競輪場？怖い？印象が悪い？ピスト＝ブレーキなく危険？

※競輪→世界のケイリン（日本で発祥の世界選手権・オリンピック種目）

※ケイリンだけじゃないトラックレース・自転車競技の魅力発信

### ➤施設の少なさ、トラック競技を知る・見る・体験する機会の少なさ

※競技の強化・普及は競技場があつてのもの→不可欠

※京都はジュニア教室の開催で他府県からも参加→トップ選手の育成

※競技を始めるきっかけは親が好きで小さな頃から乗っていた子どもが多い。→家族がターゲット！★家族で楽しめる場所

# 施設具体案

## ▲案1 (理想) 屋内333mトラック+屋内250m木製トラック

メリット : 世界・国際大会、G1レース、日本トップ選手合宿等誘致、  
多彩なイベント開催

デメリット : 多額の建設費・維持管理費、一定の観客席・選手宿舎の必要性

## △案2 屋内333mトラック

メリット : 世界大会・国内大会誘致、競輪選手からも希望、屋内競技併用、  
イベント開催

デメリット : 施設整備費・維持管理費

## ◎案3 全面屋根付333mトラック

メリット : 世界大会・国内大会誘致、競輪選手からも希望、雨天でも利用可能、  
多彩なイベント開催、屋内施設に比べて安価（建設費、空調）、  
屋根に太陽光発電の設置。様々な競技やイベントに利用

デメリット : 空調不可



# 国際大会・全国大会の誘致

## ➤ 国際大会の誘致が可能！

- ※屋内もしくは屋根付333mトラックであれば、世界大会・オリンピックを除く国際大会の誘致が可能。「KYOTO」のネームバリューは大きい。
- ※ロードレースとトラックレースをセットに。※「ツアー・オブ・ジャパン」

## ➤ 高校・ジュニア大会の聖地に！

- ※全国大会（高校総体・全国選抜大会）の誘致  
ジュニア、U-17、U-15の大会誘致
- ※ジュニアチーム、ジュニア教室等の開催→普及及び選手育成
- ※美山等府内でのロードレースとセットで開催  
「2022ジュニア全日本自転車競技選手権大会ロードレース美山大会」  
→美山・南丹・亀岡・京北等の宿泊施設や食事施設は満杯
- ※ジュニアの大会は家族が多く訪れ、リピーターを含め地域振興に貢献

# 「アーバンスポーツパーク」 + 多目的施設

## ➤BMX、スケートボード、スポーツクライミング等を集中

※オリンピックでの活躍、人気、注目度のアーバンスポーツの聖地として、屋内もしくは屋根があれば雨天でも利用可能。集約された施設は少ない。併せてトラック競技を知ってもらう機会に。

## ➤屋内スポーツやイベント施設としてスポーツと地域に貢献

※屋内施設であれば要望の高い体育館種目（卓球・バドミントン・バレーボール・バスケットボール等）の貴重なスポーツ施設となる。

※屋根付の施設であれば、風に影響されない屋内競技やニュースポーツ、祭りやマーケット等のイベント会場としても活用

※他競技やイベントと並行開催でトラック競技の紹介にも

※屋根に太陽光発電パネル設置で電気代不要や災害・非常時の対応も可能

## 第1回向日町競輪事業外部有識者会議 議事概要

- 日 時：令和4年7月11日（月） 14：30～16：10
- 場 所：向日町競輪場 選手管理センター 3階305会議室
- 出席者：川勝座長、岡崎委員、奥野委員、小長谷委員、徳廣委員、山本委員

### <委員紹介、座長の互選>

委員紹介後、委員の互選により川勝委員を座長に選出

### <議事>

#### (1) 向日町競輪事業の状況について

「資料2」に基づき、京都府から説明

#### (2) これまでの経過について

「資料3」に基づき、京都府から説明

#### (3) 意見交換

##### (川勝座長)

説明の中でも御紹介いただきましたが、事前に皆様にお配りした資料の中に、今年3月の包括外部監査の報告書があるかと思えます。その一部を今回御紹介いただいた訳ですが、近年の、向日町競輪事業を取り巻く環境、とりわけ、その経営状況が大きく変化している。一時は、廃止もやむなしというような報告もありましたが、近年の動向を見ると、その判断も見直す必要性もあるのではないかというメッセージが、包括外部監査の報告書の中では、かなり緻密な調査・分析に基づいて示されています。

包括外部監査の報告書には、競輪事業に詳しい方にとっては、当たり前のことたくさん載っているのかもしれないのですが、これまで競輪自体には全く接点がなかった私自身にとっては、専門である地方財政、あるいは公共政策という観点からも、読ませていただいて初めて知ったこともたくさんございました。

そういう意味では、非常に多角的に、委員の皆さんに御意見をいただきながら、もちろん経営ということが大事なのですが、それ以外のことも含めて、御意見を賜ればと思います。

##### (山本委員)

資料2の6頁を見ていただければわかると思うのですが、収支状況のところ、向日町競輪事業検討委員会の報告書が出た後、どのようになっているかというのが、この10年余りここで見る限り、ずっと黒字基調にあります。それから、基本的には黒字基調がずっと続いているということを受けられて、包括外部監査の報告書で、廃止という問題は、もう考えなくてもいいのではないかということをおっしゃっているかと思えます。まさに10年も経っておりますので、その点、いわゆる収益的にはきちんと黒字が出るような仕組みとして、売上を上げる方法ですとか、それから包括民間委託によってその経費も抑えられるというような状況が見えてきています。しかもこの6年間は、そもそもの競輪事業をやるという目的の一般会計への繰出もきちんとできているということを考えれば、続け

ていくというのは、包括外部監査人がおっしゃるとおり、なるほどというように思います。

参考資料にも一部指摘がありますが、今後、続けていくことに対して、どうしていけばいいかを考える必要があります。先ほど、施設を御案内いただいたのですが、やはり非常に施設の老朽化が著しいということを感じました。包括外部監査の報告書でも、中期的には十分費用を見込めるということを記載していただいておりますので、その点を精緻に見ていきながら、施設を直して、継続していくというようなことが考えられるのではないかと感じました。

#### (川勝座長)

今、包括外部監査の報告書にも言及いただきましたし、私の方からも改めてその点については言及させていただいたところですが、小長谷委員いかがですか。

#### (小長谷委員)

私は実は、向日町競輪事業検討委員会に参加させていただきまして、その時は本当に、ものすごく厳しい状況だったのが、売り上げ等が劇的に回復したので、本当にうれしく思っているのですが、やはり山本委員から御指摘があったように、今後の中期的な計画として、本当に修繕だけでいいのか。それとも、建替をしないといけないのか。では、あらかじめ積み立てをしておかないといけないのではないかとこのところの必要性を感じました。

また、地域貢献のところも非常に大切なことだと思います。地域への無償の開放も、確かに大事であると思うのですが、より収益面で、いろいろ今スポーツ、テニスなどもブームになっていたり、テニスコートがなかなか取れなかったりというのも聞いていますので、無償ではなくて、一般の方への有償の貸し出しなども御提案できないのかなと思いました。

#### (川勝座長)

今日は、残りの時間を考えますと、本格的に議論する時間は限られているのですが、次回以降に向けて、委員の皆さんから議論を進めるに当たっての重要な視点・論点、そういったものをいただけたらと思っています。

今、山本・小長谷両委員から御指摘いただいた点については、次回も含めて議論していかなければいけないと思います。包括外部監査の報告書の中では、向日町競輪事業はかつて廃止もやむを得ないとの指摘も受けたが、今日の動向を鑑みると存続すべきと結論付けられていることも受けて、山本委員からは、やはり存続の方向で議論を進めた方がいいのではないかとこの御意見をいただきました。

小長谷委員からは、向日町競輪事業検討委員会の委員でいらっしゃったということで、その時からの御経験を踏まえて、競輪事業の運営について、もう少しこういう活用の仕方もあるのではという具体的な御意見もいただいたところですが、今後の議論の進め方として、大きく分けて2つあると思います。

1つは、まず大きな方向性として、存廃という大きな課題について向日町競輪事業外部有識者会議として、どのような方向で議論するかということと、もう1つは、仮に存続という方向で議論するとなった場合に、どういった存続のあり方を我々は意見として出していくべきなのかという、マクロとミクロの両方の視点から御意見をいただけたらと思います。

今日のところは、次回に向けて、こういった点が今後議論として重要ではないのかというようにそれぞれ御指摘いただけたらと思います。ここからは意見交換ということで、それぞれ委員の皆様から、まずは一言ずついただきたいと思っています。

(徳廣委員)

私は北桑田高校の校長ですが、本校が自転車競技部の全国強豪校ということで、毎年全国優勝しております。全国大会総合優勝も3回しております。今年も順当にいけば、また優勝するのではないかと考えておりますが、本校の卒業生が大学でもチャンピオン、昨年、日本選手権でも優勝して、向日町競輪場でも選手がたくさんお世話になっております。やはり競技の側面を私は考えてみたいと思っております。競輪という事業があって、競輪場がもちろん存在するのであって、その収益をどう生かすかという話なのですが、一方で競技という部分がありまして、自転車競技という競技は、今もオリンピックにも当然競技としてありまして、競輪もオリンピック種目として、競技の種目として、世界大会・オリンピックにつながっております。

当然、競技としての裾野が、高校生から始めるのも多いのですが、小学生、中学生も競技をしております。その裾野があるから、競輪というのが、今こうしてずっと続いているのです。だから、高校で自転車を始めた子どもは、やはり大学でも続け、それから高校から直接競輪に行く子どもも含めて、競輪の選手がどんどん生み出される。ですから、競輪事業をこれからも存続して高めていって人気選手を出して、やはり地元のこの京都に、京都所属の人気選手が出るということが、非常に収益が高くなる理由にもなってくると思いますし、北桑田高校も、全部が全部、競輪選手になる訳ではありませんが、そういう意味での競技をしていく中で、競輪選手を育てていくという意味での貢献はあるのかなと思います。

やはり裾野を広げていくための競技という側面を、トラックの競技場ということで考えると、絶対に考えていかなければいけない。例えば、滋賀県の競輪場がなくなったおかげで、滋賀県の競技力は一気に衰退してしまいました。高校も複数校あったのが、瀬田工業一校だけになってしましまして、この向日町競輪場まで練習しに来ています。大会も京都と一緒にさせてくださいということで、同じ日に別レースでやっております。本当に競技場がないと競技が成り立っていかないし、練習もできないし、一気に競技力が落ちてしまいます。

また、自転車競技は、実は日本人に非常に適していると言われていまして、どうしても競輪だけに目がいきますが、東京オリンピックでも梶原選手が銀メダルを獲りましたが、特に中距離のレースになりましたら、結構日本人の適性が高いのではないかと、非常に注目もされております。

当然、競輪選手もオリンピックに出られる訳ですから、そういう意味での競技としての魅力、モチベーションも、今非常に上がってきているのではないかと。その時に、やはりこの京都の地元にも、ましてや全国強豪校の北桑田高校もある訳ですから、是非とも競輪場として存続はしていただきたい。その時に、やはり競輪という部分と、競技という部分を両方考えて、どれもがwin-winになるような施設として存続してもらえたら一番ありがたい。それはなおかつ、自転車という競技だけではなくて、当然、施設として作るならば、地域にも貢献ができたり、私はどちらかというところ、スポーツによる地域貢献、地域振興というのが専門でありますので、スポーツ協会にいたおかげで全部の競技団体の方々からお話を伺ったり、全市町村のスポーツ振興の関係者の方々とはお話をさせていただいておりますので、どの市町村が、どういうスポーツで、どういう課題があって、どういう施設が必要で、それからどの競技団体がどういう施設が足りないかという情報は、結構私自身持っておりますので、そういったことも考えながら、自転車という競技としての競技場の要

素と、それを他のスポーツとか、地域振興とも絡めて、同じ施設を、例えば新しくするならば、それをどう考えていくのかということも非常に大切になってくるのではないかと思います。

それにプラス、スポーツだけではない地域振興に役立つ施設という考え方も当然出てくると思いますので、私もいろいろな都道府県の競技場、自転車競技場だけではなくて、様々な競技の施設が地域振興に関わっている部分であるとか、それから施設だけではなくてもこういうイベントを持ってくることで、それが地域振興につながるということも、例としては知っておりますので、そんなことも御紹介させていただきながら、競技の側面と、競技だけではなくそれがもたらす地域振興につながるような考え方ができたらいいと思っております。

実は、先々週（6月25日～26日）に南丹市美山町に、全日本の自転車競技のジュニア大会（2022ジュニア全日本自転車競技選手権大会ロードレース）を、今年引っ張ってまいりました。地域の宿が全部満杯になって、食べる所も満杯になって、本当に地域振興に役立っていると思っております。

それから、精華町と京田辺市で、国際ロードレース、ツアーオブジャパンの京都ステージというの、私は少し関わってきたのですが、平日の月曜日に、5万人以上の人から集まるのです。だから、自転車が持っている、潜在的な自転車に興味を持っている人の数、日本だけでなく世界も含めてなのですが、かなり裾野が広いと思っております。そこが、もっと身近に、ロードレースだけではなくて、トラック競技も含めて知ってもらえると、その裾野のよさをもっともって出てくるのではないかと。当然、自転車の面白さ、トラック競技の面白さを知ったら、絶対に競輪にも興味を持ってもらえるとと思っておりますので、是非そういうふうにつながるような施設として広がっていけばいいなと思っております。すみません、たくさん思いがありますので、長くなってしまいました。

#### （川勝座長）

単に競輪という側面だけではなくて、競技という側面、それから地域貢献に資する活動という側面、こういったものを併せ持って議論していく必要があるのではないかとこの御意見をいただきました。地元のお立場として、岡崎委員をお願いします。

#### （岡崎委員）

向日市はわずか7.72km<sup>2</sup>、2kmと4kmしかない地域の中に、ど真ん中に競輪場があるということで、この競輪場ができてから、まちづくりと一緒に競輪が発展してきたというような思いは持っている。それは、経済的にも、雇用の問題でもいろいろあったと思いますが、これは廃止が方向付けされてから、「いつなくなるのかなあ」というのが市民の話題になっていまして、もうあれから「どうなるんやろな」というのがおおかた10年経ってきたのですが、ここでまた方向転換というか、もう一度検討されるということで、向日市にとって、向日市だけではないですが、この乙訓地域にとって、競輪場は今後どういう形で地域に、経済的なものも含めて、そしてまちづくりの観点から、施設の改修、また、そういうものができるかなという希望が少し湧いてきたのではないかなと。

これはどんな結論になるかわかりませんが、廃止になろうが、また存続という結論だろうが、地域にとっては、この地域の施設がどういう活用をされていくか、どういうものが作られていくかというのが最大の関心事になってきていますので、是非よい結論を導き出

して、施設が存続であろうが、廃止であろうが、地域の住民に親しまれる施設に生まれ変わってもらいたいという思いで、また発言をさせていただきたいと思います。売上、経営状況がどうというのは、なかなか私も素人ですのでわかりにくいのですが、まちづくりの観点から発言させていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

**(川勝座長)**

やはり地元の皆さんからすると、この地域にこの施設があるということの重み、愛着というやはり特別なものがありだということで、まちづくりと一体的にこの施設を何らかの形で活用していくという方向性で議論できたらという御意見をいただきました。

競輪そのもの、あるいは、競輪をベースにした様々なイベントとか、地域との関わりということについては、私も是非知りたいので、次回以降の会議でまた教えていただければと思います。

**(奥野委員)**

徳廣委員からもいろいろとお話がありましたが、まさに全国各地の競輪場が廃止になって、その背景も含めて、また、ミッドナイト競輪であったり、新たな形の競輪の競技、それが意味、スポーツを楽しむという観点での事業として、付加的に転用してきた競輪事業だと思っています。

そういう意味でいくと、昔々昭和の終わりぐらいの競輪のイメージというのが、またもう一つ、ギャンブル性のところがあまりよいイメージがなかったのが、足元では大変健全で、かつ、そのクリーンなスポーツをいわゆる楽しむというようになってきている中で、京都府への一般会計の繰出ができる安定的な事業として、継続できる環境が足元10年間整ったと。今後10年間、先がどうかというところは誰もわからないのですが、一方、中村輪夢選手が、新たなBMXという誰もが楽しめる自転車の先にある競技性のあるものも出てきて、大変面白いスポーツをベースに、地域振興と、かつ健康増進という観点でいくと誰もが楽しめるスポーツという背景もありますので、このあたりが地域の方に受け入れられてますます楽しめる、こういうものとして競輪、この競輪場が見直されるという方向性が大変期待できるのではないかと感じております。本当に子供たちも自転車に乗って、安全を整えた状況で、そういう場所で乗るという環境というのも、十分大切かなと思っています。

琵琶湖でいうと、ピワイチ（自転車で琵琶湖を一周する滋賀県の長距離サイクリングルート）、では京都はと、いろいろな地域で公道で楽しむレースというのもありますので、そういう背景に、この競輪場がその頂点にあるというか、そういう設備投資も含めて、存続を検討できるのではないかと考えています。

**(川勝座長)**

競輪事業が始まった頃に比べると、その競輪が持つ一種のギャンブル性というネガティブなイメージも、時代の変化とともに変わってきている。それから、自転車競技そのものが非常に多様化している。競輪事業は自転車競技の多様化とともに、健康増進、あるいはスポーツ振興にも資するような、そういう存在にもなってきている。また、非常に長期に渡ってこの事業が行われていますので、それを取り巻く背景、環境というものも随分と変わってきているということ踏まえた議論がこれから必要なのではないかと御指摘を

いただいたのかなと思います。

発言は一巡したのですが、何か追加的にありますか。

#### (山本委員)

地域貢献というお話が出てきていて、コロナで今できないという状況かもしれませんが、市民がかなりの人数集まるお祭りをこの場所で行っていることを知りました。これだけの人数が入れる場所というのは、この地域にはなかなかないのかと思いました。そういう意味で、地域のイベント開催が定着しているのであれば、再整備において、そういうことも含めた場所としてどのように使っていくのか。スポーツという観点もあるかもしれませんが、地域のお祭りだとかイベントなどでの活用を考えるべきだと思います。

この自転車競技場の外側のスペースが、他の競輪場と比べて、思いの外広いという感じを受けました。敷地を有効にうまく使って、地域のイベント会場としていくことが考えられます。もう既にこれだけの方に来ていただいているので、競輪場に対する悪いイメージというものもあまりないのかと思うのですが、なかなか近づきがたいというイメージを他の地域では持たれている場合もある中で、地域で持たれている感覚を岡崎委員にお聞きしたいところです。これだけ通常のイベントが行われていることを生かして、再整備によって非常に使い勝手がもしもっとよくなれば、非常にいい場所になるのかなと思いました。または他の種類の地域のイベントというものも、例えば土日の度に何かが行われているとか、そういうような使い方というものもあるのかもしれないなというのを、少しその可能性というのは非常に高いのではないかとということを改めて思いました。

#### (川勝座長)

競輪場は、地域の交流の場、例えば、お祭りやイベント、そういった地域の人たちが集まって交流するという場づくりというようなことにも活用できるのではないかと御意見をいただきました。

では、私の方からも少しお話させていただこうと思います。今日、皆様から御意見をいただきまして、また冒頭に御紹介させていただいた包括外部監査の報告書でも、前向きなメッセージが強く打ち出されている。委員の皆様の中からも、何かうまく活用していくような方向性でという御意見をいただきました。

ただ、競輪事業を存続するという場合には、やはりそれなりに条件を満たさないといけないと思います。

1点目は、この公営競技という収益事業、その意義を今回改めて問い直す必要があるのではないかと。そうした本質的な議論を、これを機に一度しておく必要があるのではないかとということです。

皆さん御承知のとおり、公営競技は、戦後復興の財源不足を補うために設けられました。また当初は、産業振興にも貢献するという意味合いも強かった。そういう意味では、当初の目的は一定果たし、その役割は終えたのかなと。では、もうこの事業は当初の役割を終えたので閉じましょうという話になるのか。今日皆さんからいろいろな御意見いただいた中にもありましたが、この競輪事業を取り巻く環境が大きく変わってきていることにも注目する必要があります。競技としての多様化ということもありましたし、スポーツ振興や健康増進、あるいは、まちづくりとしての取組など、競輪事業を公営事業として行う意義や役割が、地域貢献、社会還元という側面に、かなりウエイトがシフトしていくような、そういう時期に来ているのではないかと。



これは、実はこの向日町競輪事業だけではなくて、全国にも共通して言えることではないかと思うのです。当初の役割としては一定果たしたが、今日、新たな役割がこの収益事業に与えられているという、そういう場面に直面しているのではないかと。ただ、最終的にそれをどう判断するのかは、やはり地域の人たちではないかなと思います。実際、競輪事業の廃止という決断をしている地域もあります。

経営状況のV字回復ということも大きな背景としてありますが、それ以上に重要なのは、やはり地域の皆さんにとっての競輪事業の大切さというか、競輪場という「場」の大切さを考えたときに、存続して活用していくという方向、そういう新しいミッションが、この収益事業に与えられているのではないかということ。もちろん、京都府の財政に億という単位で貢献しているということが大きいということも確かなのですが、それだけではないだろうと思います。

2点目が、公益性の担保です。私のように今回初めて競輪事業について学びの機会を得たような人たちや、現時点でもよく知らない人が府民の皆さんの中にもいっぱいいると思うのです。ただ、知らないということが、魅力がないということではないので、そういう意味では、しっかりと、これが府営である以上は、府民の皆さんにその意義を共有していただくということが、事業を存続する上で大前提になるのではないかと。それは、スポーツ競技としての魅力もそうなのですが、地域貢献に資する事業なのだということが、府民の皆さんの間で共有できているという前提が満たされる必要があるということです。

他方で、公営ギャンブルは公的に管理するという一方で、認められているという側面があります。奥野委員からも発言がありましたが、ギャンブルを公的に管理することで、そういう弊害、ネガティブな側面を最小限に抑制するということが、競輪事業を存続するということであるならば、非常に重要なポイントの1つになると思います。

その上で、やはり公営競技である以上、これまで以上に「透明性」と「安全性」の確保が求められると思います。包括外部監査の報告書を見る限りでは、特にお金の不適切な取扱いは見当たらないとのことでしたが、例えば、選手への賞金は今も現金手渡しであることなどについて、疑問が呈されている。不正の事実はなくても、不正が技術的に可能な状況をできるだけ作らないようにしなければならないということです。これは個別の論点ですが、例えば、そういったことの見直しも、存続に当たっては、検討しなければならないと思います。

それから、非常に施設の老朽化が激しいので、選手はもちろんなのですが、観客として来られる方、あるいは地域の交流活動として来られる住民の方々の安全性を確保しなければいけません。そういった点がしっかりと持続的に確保されることも、公益性を担保する上で重要だと思います。

また、今日皆さんの御意見の中で最も多かったのが地域貢献という側面ですが、中でも特に私が重要だと思いましたが、人材育成です。徳廣委員からも、スポーツ人材のお話をいただきました。過去にも、この京都からたくさんの有望な選手を輩出されてきた。京都は自転車競技の強豪県で、向日町競輪場は高校や大学の自転車部の練習場にもなっていることが、包括外部監査の報告書の中でも言及されておりました。京都という場で、そういう人材が育成されてきたという歴史そのものが非常に大切な財産でもありますし、そのことを断絶させてしまうようなことになってはいけませんので、そうした意味も含めた公益性の担保というのは、事業存続に当たっての条件として極めて重要なポイントになるのではないかと。

3点目ですが、仮に存続するといった場合には、先ほど小長谷委員がおっしゃっていましたが、単に老朽化しているものを補修して現状を維持するというだけでいいのか。

例えば、観客席の規模を今と同じ規模で維持する必要があるのか。自転車競技そのものだけではなくて、社会経済情勢が大きく変化してきています。人口が減少してきている。デジタル化がどんどん進んできている。昭和の初期の頃に比べると随分といろいろな条件、状況が変わってきていますので、それに応じた、リニューアル、活用のあり方をもっと追求していくことが必要ではないか。

具体的なアイデアについては、また今後の会議の中で、皆さんからたくさん御意見をいただければと思っているのですが、思いつきのレベルでも、既にいろいろな可能性があるかと個人的に思います。例えば、かつてはお客さんが競輪場にたくさん押し寄せて、競輪競技を観戦することが前提となっていました。今は時間や物理的な距離の制約で競輪場に來れない人たちがその限界を乗り越えて観戦できるデジタル技術が既に広がりつつあります。

そういう意味では、競輪場に來てライブでしか味わえない熱量を感じられる選択肢を一定保持しながら、デジタル技術を活用して日常的な観戦のアクセシビリティを高めるなど、ファン層の広がりを生み出すような仕掛けがこの競技の中でできたりすると、いろいろな可能性がまた生まれてくるのではないかと。この競輪事業でも、既にインターネットを通じて車券を購入するケースが大半を占めていますし、今後はもっと増えていくだろうと考えていきますと、ますますネット環境を使った映像の配信が主流になっていくことを前提とした施設のリニューアルと利用の仕方を追求していくことが求められる。そう考えていきますと、競輪事業にいろいろな可能性が広がっていきますし、また、その結果として、京都府財政にも継続的に貢献していくような事業になっていくのではないかと。

今日、委員の皆さんからは、全体的に前向きな御意見をいただきましたので、仮に存続という大方針を、この外部有識者会議で共有できるのであれば、今、私が申し上げたような点にも御留意いただきながら、議論を進めていただければと思います。

#### (徳廣委員)

他にもいろいろと思っていることはあるのですが、私はいろいろな競技を知っている中で、競輪がらみで、やはり自転車競技はすごく恵まれている部分があります。一昨年、コロナでインターハイが全部中止になりました。その中で、私が全国の部長をしておりまして、全国大会をどうしようかという時に、生徒達は練習してきて、もう試合がなくなってしまうのは、それはとんでもないことだったので、絶対に代替大会をしようと言って、向日町競輪場で代替大会、全国大会を開くことができました。

いろいろと言われました。投書があったり、電話がかかってくるなりと。しかしながら、開催した時に、もう全部の参加者からお礼を言われました。よく開いてくれたと。

その時に、3日間ずっとライブ配信を YouTube 配信をしていただいたのですが、これはそんな簡単にできることではなくて、これは自転車競技で、向日町競輪場であるからできたのだなと思いました。全部の競技について、自転車競技が一番最初に、インターハイの代替大会を開きました。それを YouTube で配信して、毎日3万回の視聴があったのです。競技をやるのに、競技場に絶対3万人は來れないのです。

YouTube で配信したおかげで、逆にたくさんの人の興味、実はそこから今もうそれが当たり前になっていて、どの大会も YouTube 配信されるようになった。それが自転車だけではなくて、陸上のインターハイとか全国大会も YouTube 配信されるようになってきた。

これは逆にコロナと自転車競技との融合の中で、新しいスポーツの捉え方ができたので

はないかと思っている。先ほど川勝座長が言っておられた話で、だから、ライブで観客が見るのもあるが、そうしなくても、また新しい考え方、それは競輪にとってもそうだろうと思いますし、そう考えると、競輪場の規模や観客席が今のように大きいものが必要なのかどうか、いらぬのか。それでも十分楽しんでもらえるというのが考えていけるのかなと。それほど予算をかけなくても、また作る規模も考えられるのではないかと思っている。

それから、競輪が本当に潤沢であった頃に、すごくたくさんいろいろな補助金が出て、日本ではそういう経過の中で、スポーツにお金をかけないでもいいというような部分があるのですが、それも今時代が変わってくる中で、受益者負担で、やはりある程度負担を出してもらおうというのが、一般的には少しずつ芽生えてきているのかなと。

やはり競輪で得た収益というのをどういう形で使っていくのか。その収益をいかに使っていくのかというのを明確にすることで、例えば、スポーツ振興なりに生かすことがわかっておれば、例えばt o t oもいろいろと論議されながら、今やはり非常に収益が上がっている。ある程度、目的がわかってきたら、スポーツ振興に関わるのであれば、自分も、競輪をやってみようかなとそういう意識はやはりあるのです。我々が、スポーツ振興に関わるのであれば、t o t oをやってみようかなと意識しましたし、そういう考え方も、今後できるのかなと思います。

#### (川勝座長)

徳廣委員のお話は、競輪競技がいつでもどこでも、YouTube で観戦できるという選択肢が生まれる可能性があるということだと思います。

時には、やはりライブで、生の選手の吐息まで聞いて競輪競技を体感してみたいという時もあると思うのですが、しかし日常的にはそこまでしなくてもネット配信での観戦で十分という方もかなりいらっしゃるのではないかと。今までその選択肢がなかったが、選択肢が生まれることによって、これまでやめておこうかなと思っていた人が、この競技を観戦してくれたり、車券を購入していただける機会を増やすことにつながっていくのではないかと。

いずれにしても、仮に事業を存続するといった場合に、これまでの形をそのまま踏襲するというを前提とせず、いろいろな可能性を追求していく。選手にとっても、観戦する人にとっても、誰にとってもハッピーになるような、そういう存続の方向性とか、もっと言えば、競輪がスポーツ競技として発展し、地域貢献にもさらに資するような、そういう向日町競輪場になっていくにはどうすればよいかを、次回以降も皆さんと議論できたらと思います。

今日は第1回ということで、今後議論していくための視点をそれぞれいただいたと思いますので、より具体的な議論につきましては、また次回以降、一つ一つ重ねていきたいと思っています。そうしましたら、予定していた時刻になりましたので、本日は以上とさせていただきます。

(以上)